

平成26年第3回大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

平成26年8月28日

大仙市長 栗 林 次 美

平成26年第3回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況について報告申し上げます。

はじめに、8月21日の大雨による被害状況等について報告いたします。

21日午後2時までの24時間雨量が南外ダムで171ミリを観測したほか、大曲地域で48時間雨量が130ミリを観測した今回の大雨では、市内の中小河川の水位の上昇により、大曲地域では福部内川流域の大曲福見町地内の17世帯に対し、一時、避難準備情報を発令し、対象住民の皆様に警戒をお願いしたところであります。

26日現在、この大雨により、住家、非住家を合わせ、大曲地域で6棟、南外地域で4棟、仙北地域で5棟の浸水のほか、道路では、南外地域の出羽グリーンロードで20メートルにわたる道路崩壊1カ所、同地域の他路線でも路肩決壊など3カ所、大曲、南外、仙北地域で道路冠水19カ所、農林業関係では、南外地域で農地冠水30ヘクタール、法面崩落など農地・農業用施設29カ所、林道4カ所、大曲地域でため池堤体法面崩落など2カ所、協和及び太田地域で法面崩落など林道各1カ所の被害が報告されておりますが、幸い、人的被害の報告はありませんでした。

また、強い勢力を維持しながら日本を北上し、各地に大きな被害をもたらした台風11号については、本市への影響も心配されましたが、10日から11日にかけて本県に接近した際には勢力も弱まり、西仙北及び協和地域で水路の法面崩落各1カ所などの被害にとどまっております。

これら一連の災害に対する復旧については、今後、可能なものから順次対応してまいりたいと考えております。なお、全国的に自然災害が多発している現状や、これまでの教訓を踏まえ、国の基準改訂に基づき、「大仙市避難勧告等判断・伝達マニュアル」を本年度内に策定することとし作業を進めてまいります。

次に、8月23日に開催された第88回全国花火競技大会「大曲の花火」について報告いたします。

今年の大会は、創造花火誕生50周年を記念する大会であり、テーマを「創

造花火半世紀 先人を讃え、新たなステージへ。 守<sup>しゅ</sup>破<sup>は</sup>離<sup>り</sup>とし、国土交通省、秋田県警察、広域消防、消防団など関係機関のご協力のもと盛大に開催され、72万人の人出となったところでもあります。

今回の大会は、不順な天候と21日の大雨の影響により、利用者の安全と車両が脱出できない可能性を考慮し、21日正午に河川敷内に設置した駐車場の閉鎖を決定いたしました。その後も降雨が続き予定どおりの開催が心配されましたが、当日の天候回復と打ち上げ現場での懸命の排水作業などにより、開催にこぎつけることができましたのもであります。

大会の開催にあたっては、安全面でも日本一の大会を目指し、観覧会場のレイアウトを大幅に変更し、火気を扱う露店を観覧会場の南北2カ所で集中管理としたほか、無料観覧席を昨年と同程度に確保しながらも、会場内通路を8メートルに拡張し利便性にも配慮したところでもあります。その結果、会場周辺のほか市内を含め、大きな混乱や事故もなく大会を無事に終えることができました。

なお、今大会で4回目となりますが、花火鑑賞士の皆様からもご協力をいただき、岩手県及び宮城県の沿岸部4市町の被災者と本市のほか横手市、美郷町に避難されている方々、合わせて218人を花火大会の栈敷席にご招待をしたところでもあります。

また、8月17日から「大曲の花火」までは、「だいせん『花火』と『食』のおもてなし事業『大曲の花火ウィーク』」が開催され、大雨の影響により一部の日程が中止となりましたが、多彩なイベントが実施されております。なお、初日の17日には、花火通り商店街を主会場に、40周年を迎えた「夏まつり大曲」が開催され、市内外から多くの方々に訪れていただいたほか、同日、市内の各団体や市からなるプロジェクトチームにより、第5回目となる街なか婚活イベント「ドンと恋～街バルチックロマンス～」が行われ、105人の参加者が交流を深めたところでもあります。

さらに、「大曲の花火ウィーク」及び「大曲の花火」の開催に合わせ、コミュニティFMのイベント放送も実施されたところでもあります。コミュニティFM事業については、平成27年度の開局を目指しているものでありますが、総務省から臨時目的放送の免許交付を受け、周波数87.3メガヘルツ、出力

20ワットにて放送を行ったもので、「大曲の花火」の生中継などにより大会やまちの賑わいを伝えるとともに、駐車場の満空情報、高速道路や主要道路の渋滞状況などの交通情報をタイムリーに放送し、観覧者等へのサービス向上及び渋滞緩和にも力を発揮しております。また、放送期間中は、大雨の影響を受け、予定の番組を一部変更し被害の状況を発信するなど、災害情報伝達ツールとしての役割も果たしております。

なお、各地域における夏まつり行事については、7月5日には33回目となる「協和七夕花火」、7月26日には24回目となる「ふるさとなんがい夏まつり」、8月2日には4回目となる「太田の夏まつり」、8月15日には26回目となる「彩夏せんぼく」、8月16日には市指定無形民俗文化財の「角間川盆踊り」、30回目を迎えた「ドンパン祭り」、本年度初めて開催の「南外盆踊り」、翌17日には30回目を迎えた「ふるさと西仙まつり」などが地域色豊かに開催されたほか、9月14日には35回目となる「神岡南外花火大会」の開催が予定されております。

これら一連の夏まつり行事では、市の地域枠予算や「がんばる集落」活性化支援事業制度などを活用しての行事開催や事業実施もあり、今後も、地域活動・地域づくりの取り組みについて、一層の支援をしてみたいと考えております。

次に、花火産業構想の進捗状況についてであります。

花火産業構想については、市、大曲商工会議所、大仙市商工会が、それぞれ内部でプロジェクトチームを立ち上げ、10月までに実施可能な事業の検討を行い、この後、三者によるプロジェクト会議において年度末までに実施計画を作成し、翌年度以降、各事業を具体的に進めていくこととしております。このため、市としても、できるだけ早く実施可能な事業の検討を行う必要があることから、8月5日の第4回臨時会において調査経費の補正予算を承認いただいたものであり、8月下旬から順次、委託業務の発注を進めております。

市のプロジェクトチームでは、4月以降、各省庁や秋田県、日本煙火協会、日本煙火芸術協会、足利工業大学等へ花火産業構想に対する支援の要望活動を行っておりますが、国内で唯一、花火に関する研究コースのある足利工業大学

からは、花火に関する人材育成と花火の共同研究・開発への協力に前向きな発言もいただいております、今後も協議を継続することとしております。また、一部の事業については、県の支援策である「秋田県市町村未来づくり協働プログラム」を活用することとしており、現在、県と市によるプロジェクトチームの設置に向けた協議を進めております。

次に、雪対策に関する総合的な計画の策定についてであります。

昨年度から、庁内のプロジェクトチーム及び各種団体代表者等で構成する策定委員会により策定作業を進めてまいりました雪対策総合計画については、8月5日に、計画案の中間報告という形で議員各位への説明会を開催させていただきましたが、その際の意見、また、各地域協議会やパブリックコメントでの意見等を踏まえ、今次定例会中に計画の最終案について、議員各位に説明させていただく予定であります。なお、計画案の段階ではありますが、今次定例会に、この計画案に基づく雪対策関連予算の補正をお願いしております。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況等について報告いたします。

はじめに、総務部関係についてであります。

職員採用試験については、一般行政事務、保健師及び土木、電気、機械の技術系職員、一定の社会経験のある職務等経験者、合わせて20名程度の採用予定に対し101人の受験申し込みがあり、一次試験を7月27日に、二次試験を8月15日から19日まで実施し、9月2日に合格発表を予定しております。

大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験については、上級、初級合わせて10名程度の採用予定に対し、上級消防及び上級職務経験者には20人の受験申し込みがあり、一次試験を7月27日に、二次試験を本日と明日の2日間実施し、9月12日に合格発表を予定しております。また、初級消防及び初級救命には31人の受験申し込みがあり、9月21日に一次試験を実施する予定としております。

空き家対策については、6月30日に大曲交流センターにおいて、県内では

初となる「株式会社秋田銀行との『空き家解体ローン』提携に関する覚書」を、仙北市、美郷町と同時に取り交わしております。これは、秋田銀行が実施する「空き家解体ローン」において、市が実施する空き家解体費補助金制度の対象者に対しては金利を一般利用者よりも優遇するというものであります。なお、空き家解体費補助金については、これまでの交付状況等を勘案し、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、企画部関係についてであります。

大曲通町地区第一種市街地再開発事業については、現在、旧病院棟の解体工事を施工中であり、10月末には完了する予定であります。8月末時点の解体工事の進捗率は60パーセントを見込んでおり、着手に約1カ月の遅れが生じたものの、概ね順調に進捗しております。

建築工事については、全国的に深刻化する建設技能者不足の影響を回避するため、10月上旬には、既に解体が完了している南街区西側の事務所棟及び駐車場棟建築工事に先行着手し、解体工事と並行して進める予定であります。残る健康福祉棟及び児童福祉棟の建築工事には、解体工事完了後の11月上旬に着手する予定であり、一時期に同工種の工事が集中することを避け、建設技能者の平準化及び工程の効率化が図られることにより、円滑な施工がなされるものと考えております。なお、解体工事施工中であります。建築工事着工に先立ち、9月26日に起工式が行われる予定となっております。また、南街区に整備される施設の概要及び工程などについて、今次定例会中に議員各位に説明させていただき予定としております。

5月に「Anbee（あんべー）大曲」2階にオープンした市民活動交流拠点センターについては、月1回の定期的な結婚応援相談会や消費生活相談会の開催のほか、講演会や各種展示会など様々なイベントに利用されております。利用者数も、6月の1,928人から7月では2,346人と増加しており、8月も多くの方に利用いただいております。

非核平和都市宣言事業については、7月29日から31日まで、市内の中学生8人を非核平和レポーターとして広島市に派遣しており、その成果を10月23日に大曲市民会館で開催する「市民平和の集い」で発表させていただくこと

としております。また、昨年度に引き続き、市民の平和に対する一層の意識醸成を目的に、「平和」をテーマにした標語コンクールを実施することとし、明日まで標語の募集を行っております。

国内交流については、神奈川県座間市との交流が活発に行われ、7月5日、6日の両日には座間市国内友好都市推進委員会の9人が本市を視察し、また、8月1日から3日までは座間市ジュニアリーダー等18人が本市を来訪し、協和わんぱくの森でのキャンプを通して、本市の子どもたちと交流を深めております。

国際交流については、一昨年8月から中断していた韓国唐津市たんじんとの青少年交流事業が2年ぶりに再開し、8月4日から7日まで唐津市の中学生等10人を本市で受け入れたところであります。また、8月22日から25日までは、唐津市のチョ・イヒョン副市長をはじめ4名が本市を訪問し、綱引きや青少年スポーツ交流などについて協議を行っております。訪問期間中は、「大曲の花火」の鑑賞や「旧池田氏庭園」、JAの「おばこライスターミナル」なども視察していただいたところであり、今後さらに、両市が、各分野において友好協力関係を築き、相互の繁栄と理解を深めてまいりたいと考えております。なお、唐津市副市長から私に対し、年内に唐津市へ招待し、新たに選出された唐津市長と会談していただきたい旨の要請を受けたところであります。

次に、市民部関係についてであります。

夏の節電対策については、昨年に引き続き、本市において独自に10パーセント削減を目標数値に掲げ、市民、事業者の皆様と一体となった節電に取り組んでおり、市庁舎及び4市民会館における6月から7月末までの2カ月間では、最大電力使用量の削減率が目標を上回る23パーセントとなるなど、成果を上げております。

環境学習の推進については、夏休み期間中に市内全21小学校の4年生654人が、ごみ・水・エネルギーをテーマにした「子どもエコチャレンジ」により、環境にやさしいライフスタイルについて学んだほか、市内全11中学校の生徒と公募の参加者による合わせて642家族が「環境家族宣言」を行い、地球環境を守るために家庭で楽しく無理なくできるエコに取り組んでおり

ます。また、親子環境学習事業として、8月1日に姫神公園で行った「昆虫博士になろう」には51人が、8月6日に中仙地域の齊内川で行った「さかな博士になろう」には50人が参加しております。

ごみの減量化対策については、地元の廃棄物収集業者と市職員が講師を務める特別学習を昨年度に引き続き実施しており、本年度は、大曲、角間川、神岡、西仙北、清水、南外、太田北の7小学校の4年生、計290人が参加し、ごみの減量化や再資源化、ごみ出しマナーについて学んでおります。

第7回大仙市安全・安心まちづくり推進大会については、7月30日に大曲市民会館を会場に開催し、市民、関係団体など約480人の参加のもと、交通事故防止や防犯啓発活動などに尽力された6個人2団体の表彰を行ったほか、読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏はしもとごろうから「真の教育には何が必要か」と題して基調講演を行っていただいております。

市内各学校の通学路グリーンベルト設置事業については、本年度予定していた大曲、花館、東大曲の3小学校については7月31日までに設置が完了し、さらに要望のあった中から対応が可能な大川西根、四ツ屋、清水、協和、南外、太田南の6小学校及び大曲中学校の一部については、9月下旬までに完了の予定となっております。

大曲仙北広域市町村圏組合による新火葬場の建設については、6月から基礎工事に着手しており、今後は、11月頃までに躯体のコンクリート工事を行い、その後、火葬炉設備が据え付けられる予定となっており、来年3月20日までの工期内に完了するよう進めてまいります。

次に、健康福祉部関係についてであります。

7月1日から申請の受け付けを開始した臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金については、8月20日現在、臨時福祉給付金8,971件の申請に対して、8,192件、1億6,960万円の給付、子育て世帯臨時特例給付金3,985件の申請に対して、2,722件、4,366万円の給付を完了しております。なお、申請期間は10月1日までとなっており、引き続き広報等を活用し、申請を促すべく周知に努めてまいります。

社会福祉法人大仙ふくし会が市の財政支援を受けて実施している「特別養護



老人ホーム峰山荘移転改築事業」については、基礎工事を終え、現在は、躯体工事に取りかかっており、8月20日時点での進捗率は33パーセントと伺っております。なお、8月5日の議員全員協議会において説明いたしました、工事請負契約のスライド条項適用による事業費増額分に対する同法人への補助金については、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

大仙市戦没者追悼式については、7月25日に大曲市民会館において戦没者の遺族をはじめ257人の参列のもと挙行いたしました。終戦から69年が経過し、戦争の悲惨さを知る方々が年々減少していく中、本年度も戦没者の妻の方1名が参列されました。また、本年度は、一般財団法人秋田県遺族連合会主催の大仙市・仙北市・仙北郡地方大会が本市を当番市として同日開催されており、こちらには303人の参加をいただき、「世界の恒久平和と戦争の悲惨さを戦後世代に語り継ぐこと」など7項目の決議と大会宣言を採択しております。

敬老会については、9月2日の大曲地域大川西根地区、四ツ屋地区及び西仙北地域大沢郷・強首地区を皮切りに15会場にて、9月19日までの日程で開催することとしております。

予防接種事業については、予防接種法の一部改正に伴い、10月1日から水痘<sup>すいとう</sup>及び高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種を追加実施してまいります。

このうち、水痘の予防接種については、1歳から2歳は2回の接種、また、本年度限りの措置として3歳から4歳については1回の接種とし、予防接種費用は全額を助成するものであります。

また、高齢者の肺炎球菌の予防接種については、本年度から平成30年度までは、各当該年度に65歳から5歳刻みで100歳までの年齢に到達する方を対象とし、平成31年度からは65歳の方を対象として実施いたします。なお、心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能障がい又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障がいを有する方については、60歳以上65歳未満の方も対象としており、本年度に限っては、101歳以上の方も対象としております。この予防接種については、1回の接種とし、費用は3千円を助成することとしております。

水痘及び肺炎球菌ワクチンは、接種することにより免疫効果を高め、感染症予防や疾病の重症化防止が期待できることから、大曲仙北医師会との連携を密

にし、市広報やポスター掲示、個別通知等により接種率の向上に努めてまいります。

認可保育所における乳幼児の入所状況については、年度途中の入所を容易にするため、本年度から「乳幼児保育推進事業」を導入し、新たに12人の保育士を配置して対応にあたった結果、4月2日以降における0歳及び1歳児の途中入所数は8月1日現在43人で、前年同期に比べ24人多い入所となっております。一定の成果が得られたものと思っております。

平成27年度から施行される「子ども・子育て支援新制度」については、幼稚園や保育所、放課後児童クラブなどの設備や運営に関する基準を市町村が条例で定めることとされていることから、今次定例会に係る条例案を上程しております。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作については、田植え作業以降の天候にも恵まれ、出穂期は平年並みの8月2日となっております。概ね良好な生育状況となっております。

大豆栽培モデル対策事業については、7月24日、大豆生産農家や農業・食品産業技術総合研究機構東北研究センターなど関係機関とともに、大曲、西仙北、太田の各地域の実証圃の現地視察を行ったところであり、各圃場とも順調な生育を確認しております。

担い手への農地の利用集積や集約を図る農地中間管理事業については、市では、7月1日から1カ月間、農地の受け手である借受希望者の募集を行ったところ、県内市町村では最多となる399人から応募がありました。農地の出し手である貸付希望者については随時受け付けており、今後、出し手・受け手の条件交渉等を行いながら、農用地利用集積計画や配分計画案を作成し、11月下旬には、県から、この事業による初めての決定公告がなされる見通しとなっております。なお、受け手の募集は11月にも行う予定であり、出し手の掘り起こしと合わせて、事業の推進を図ってまいります。

東部及び西部新規就農者研修施設については、14人の研修生が、野菜・花きの中から自ら取り組むべき作目を選択し、春から研修に励んでおり、また、本年度整備を予定していた堆肥盤やパイプハウスなども順次発注し、施設の充

実を図っております。なお、西部研修施設においては、昨年度に引き続き、6月26日に「野菜栽培なんでも相談会」を開催したほか、9月11日には東部及び西部研修施設の一般公開を予定しております。

園芸メガ団地整備事業については、試験栽培用のパイプハウス6棟が6月30日に完成し、「農事組合法人下黒土アグリ」が主体となりトマトの試験栽培に取り組んでおり、8月19日に初出荷したところであります。

「2014. あきた水と緑の森林祭」については、県民参加の森づくり活動を推進するイベントとして、7月12日に中仙地域の八乙女公園を会場に開催されております。当日は800人を超える来場者があり、代表者による桜の記念植樹や参加者による桜への追肥作業などが行われ、併せて大仙市誕生10年を記念しケヤキの植樹を行っております。また、式典では、これまでの活動が評価され、「八乙女山を守る会」及び「花館地区コミュニティ会議」が、「秋田県水と緑貢献賞」を受賞しております。

10月から3カ月間開催されるアフターデスティネーションキャンペーンについては、10月4日、JR大曲駅において、大曲駅、市、市観光物産協会共催のオープニングイベント「大曲エキまつり」を開催するほか、同4日と5日には、仙北市、美郷町及び仙北地域振興局と連携し、秋田駅東西連絡自由通路「ぼぼろード」での地元特産品や加工品、観光のPRを行うイベント「秋田がんばろう市」への参加を予定しております。

また、10月18日、19日の両日は、本市特産品の販売や観光PR等を図ることを目的に、昨年にも引き続き、東京のJR有楽町駅前において、「大仙市ふるさと物産フェア」を市観光物産協会が主体となり実施することとしており、市が支援し、商工団体や首都圏ふるさと会などのご協力をいただきながら、現在準備を進めております。

湯温低下や湯量不足に伴い、電磁探査、放射能探査等を実施した奥羽山荘の源泉開発については、探査で得られたデータと真昼川層の地層データや中里温泉、美郷町の千畑温泉、六郷温泉などの近傍の温泉のデータから、奥羽山荘敷地の地下深度900メートル付近に温泉貯留層が分布するとの予想がなされております。この結果から、奥羽山荘東側駐車場の一角を源泉掘削場所としたところであり、7月29日付けで県から温泉掘削が許可されたことから、今次定

例会に源泉掘削及び揚湯設備工事に係る予算の補正をお願いしております。

商業振興については、安心できる商業環境の構築のため、生鮮食料品や生活必需品の買い物に苦慮している南外地域の一部地区において、6月12日から週2回、移動販売車の巡回サービスを試験的に実施してまいりましたが、一定の成果が得られたことから、10月から本格的に運行委託事業を行うこととし、今次定例会に委託経費に係る予算の補正をお願いしております。

雇用対策については、来春就職する高校生等の就職に対する理解を深めるため、県南3つの雇用開発協会の共催により7月22日から8月4日までの14日間、県南地区職場研修事業が実施され、大曲仙北管内においては、市内の42事業所にご協力をいただき、延べ165人が参加しております。

また、来春卒業する高校生の採用枠の拡大と早期の求人票提出を要請するため、6月13日に、仙北地域振興局、ハローワーク大曲、仙北市、美郷町及び大仙市で構成される仙北地域雇用促進連絡会議において、管内の高等学校長とともに、市内経済団体に対し要請活動を行っております。なお、平成27年3月新規高卒者への7月末日現在の求人状況は、ハローワーク大曲管内で求人事業所数116社、求人数353人と、前年度同時期と比べ求人数が92.9パーセント増加しており、要請活動の成果があったものと考えております。

若年者の就職支援については、明日から市独自の「若者就職応援講座」を開講し、早期の雇用に結びつくようハローワークと連携した取り組みを進めてまいります。

企業対策については、企業誘致やきめ細かな対応のため首都圏及び市内の企業を訪問しているほか、市内企業の取り引き拡大のため、企業代表とともに首都圏の主要取り引き先に対する企業訪問を行っております。また、企業のイメージアップを図るとともに、市民の大切な雇用の場である地元の企業・事業所をより広く知っていただくため、市広報に市内企業の紹介欄を新たに設け、9月から掲載する予定としております。

本年新規操業の2社の状況については、大曲地域の「エスアイアイ・プリンテック株式会社秋田製造分室」は、セイコーインスツル株式会社秋田事業所の空きスペースに製造ラインを新規に設置し2月から仮稼働しており、産業用のインクジェットプリンタ用ヘッドを製造しております。雇用については、7月

末現在で正社員14人、契約社員55人となっており、9月からは千葉県松戸市の本社にある設備を移設し、本格稼働する予定と伺っております。

中仙地域の東長野工業団地を取得した「株式会社大仙物流」は、東長野低温倉庫を6月に完成させ、正社員17人により政府備蓄米や一般米の保管・出荷業務をスタートさせております。低温倉庫の保管容量は1万2,000トンで、6月完成時は9,500トンを保管し、その後随時出荷していると伺っております。

次に、建設部関係についてであります。

都市計画道路中通線の整備については、区画整理事業分及び街路事業分とも8月7日に工事契約を締結しており、年度内の暫定供用を目指し工事を進めてまいります。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業については、黒瀬踏切前後の区画道路が、8月10日に歩行者及び自転車専用踏切として供用を開始しており、残る区画道路の新設工事についても、1区画道路を残し発注済みであります。なお、下水道工事については、区画道路新設工事との関連もあり、道路工事の進捗状況を見ながら発注したいと考えております。建物移転については、昨年度からの繰越を含め本年度補償契約を予定している11戸のうち9戸の権利者と契約済みであり、残る権利者とも現在交渉を進めているところであります。なお、建物移転については、本年度で全て完了の予定であります。

大曲駅から大曲厚生医療センター前を区間とする大曲駅前通り線の歩道無散水融雪事業については、市街地再開発組合が施工する区間を除いて進捗率は90パーセントに達しており、9月中には完了の予定となっております。

道路整備事業については、社会資本整備総合交付金事業により本年度から着手している市役所前通線の歩道整備について、無散水融雪設備工事を発注済みであり、舗装工事についても、まもなく発注の予定であります。また、同じく本年度から事業着手している南外4号及び19号線の路肩改修事業については、2カ所とも発注済みであります。舗装道路の計画的かつ効率的な維持管理を目的に、本年度から実施している路面修繕事業については、5カ所のうち3カ所を発注済みであります。

市単独事業である各地域25カ所の道路工事については、3カ所が完了し、7カ所は発注済みであり、残りの工事についても早期発注に努めてまいります。

第2回定例会において予算の補正を承認いただいた道路台帳の統合事業については、台帳の統合及び電子化と将来的な統合型の地理情報システムいわゆるGISの構築を視野に、公募型プロポーザルによる委託業者の選定手続きを終え業者を特定しており、現在、契約交渉に入っております。

住宅リフォーム支援事業については、8月20日現在、申請件数は281件、補助金額で4,700万円、対象工事費は7億2,431万円となり、昨年度と同程度の事業実施状況となっております。このうち、本年度から新たに補助メニューに加えた克雪対策については、申請件数55件、補助金額834万円、対象工事費が8,936万円となっております。

なお、木造住宅耐震改修等補助事業については、耐震診断の申し込みが8月20日現在で1件にとどまっており、今後、さらにPR活動に努めてまいります。

市有建築物の耐震化については、昨年度実施設計を完了した協和庁舎、仙北庁舎、上大町市営住宅について6月に工事契約を締結し、年内に完了の予定となっております。また、太田体育館についても9月に契約締結し、11月中旬には完了の予定であります。

次に、国、県関係事業についてであります。

雄物川中流部の直轄河川改修事業については、国土交通省湯沢河川国道事務所において、本市分として繰越事業費を含めて30億300万円の予算を確保していただき、協和地域峰吉川の中村<sup>あしざわ</sup>芦沢地区、西仙北地域の強首地区、寺館大巻地区及び南外地域の西板戸地区において、樋門新設及び築堤等の改修工事を実施していただいております。なお、県南の5市町村長と議会議長で構成し、私が会長を務める雄物川上中流改修整備促進期成同盟会では、雄物川上中流部整備の一層の推進を求め、7月7日、8日に国土交通省や財務省に対し要望活動を行ってまいりました。

国道46号については、協和地域荒川地区の線形改良事業が昨年度から行われており、今後も早期完成に向けた事業の推進をお願いしてまいります。

県事業の福部内川改修については、排水樋管の詳細設計及び地域住民から拡幅要望が出されておりました市道変電所松の木線「中良野橋」の橋梁予備設計を発注済みと伺っております。

県管理の道路事業については、主要地方道神岡南外東由利線の湯ノ又地区のミニバイパスが6月30日に開通したほか、一般県道水沢西仙北線の<sup>とのやしき</sup>殿屋敷橋の上部工を発注済みと伺っております。また、平成16年度から秋田県が整備を進めておりました「大曲花火大橋」が昨年度完成したことから、旧橋となった大曲橋の解体工事が9月から3年間にわたり行われる予定と伺っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業については、大曲住吉町地内ほか2件の配水管改良工事は、7月上旬までに完了しており、また、大曲金谷町地内の配水管改良工事は発注を終えており、10月下旬の完了を予定しております。

消火栓移設工事については、大曲住吉町地内ほか1件の工事を7月上旬に完了しており、ほか2件については発注の準備を進めているところであります。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事については、本年度予定している工事4件のうち1件については6月下旬に完了しており、残り3件についても発注の準備を進めております。また、配水管布設工事については発注を終えており、12月下旬の完了を予定しております。

簡易水道事業については、<sup>こころやりこすぎやま</sup>心像小杉山地区導水管移設工事が8月上旬に完了し、協和中央地区浄水施設整備工事及び大沢郷地区区域拡張事業配水管布設工事についても、8月下旬までに発注を終えております。また、仙北中央地区については、水源予備調査業務が8月下旬に完了し、水源詳細調査業務の委託を9月中旬に発注する予定であり、淀川地区の実施設計業務については、準備が整い次第発注の予定であります。

公共下水道事業については、大曲、神岡、南外地域において、管渠工事10件を発注しております。また、農業集落排水施設を含めた下水道処理施設の長寿命化対策については、基礎調査業務、計画策定業務等3件を発注しております。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校施設の整備については、小・中学校全32校の体育館などにおける天井等の非構造部材の落下防止に係る点検・調査が終了しており、今後は、調査結果を基に、早期に対策工事に取り組んでまいります。なお、今次定例会に大曲、西仙北の2小学校の工事及び11小・中学校の実施設計経費に係る予算の補正をお願いしております。

西部学校給食センターの建設については、昨年11月から建築工事等を実施しておりますが、8月末時点の進捗率は74パーセントを見込んでおり、計画どおりの進捗であります。なお、同センターの建築工事においても工事請負契約のスライド条項を適用することに伴い、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

実施2年目となる「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」については、東日本大震災の被災地との交流活動及び地域との連携による避難所開設訓練に重点を置き取り組んでおります。

被災地との交流活動については、6月4日の大曲中学校を皮切りに、中仙、清水、豊岡、南外、太田東、太田南、太田北の各小学校及び中仙、南外、太田の各中学校が、それぞれの交流先の学校や仮設住宅を訪問し、児童生徒や住民の方々との親睦を深めており、今後、大曲小学校や平和中学校においても同様の事業が予定されております。また、地域との連携による避難所開設訓練については、自主防災組織等との連携や「中学生サミット」の参加により、9月4日に大曲西中学校を会場に実施の予定であります。

なお、「中学生サミット」は、8月21日に大曲中学校を会場に開催され、市PTA連合会会員が見守るなか、小学生の参加も得て、子どもたちによる「大仙未来プロジェクト」として、自分たちでできる地域づくりの取り組みが話し合われております。

新規事業である「情報モラルいじめ対策事業」については、携帯電話や通信機能付きゲーム機等の急激な進歩と普及に伴い、犯罪に巻き込まれることや子ども同士のいじめの原因となることなどの防止を目的に、情報モラル教育の専門家を全小・中学校に派遣し講演会等を開催するものであり、これまで13校で実施しております。



実施4年目となる「コロンブスの卵わくわくサイエンス事業」については、教員の指導力向上のための研修のほか、8月5日、6日には、中学生18人を、幕張メッセで行われている宇宙博のほかに、選択コースとして千葉大学医学部や産業技術研究所等に派遣しております。

4月に実施された全国学力・学習状況調査については、8月25日に結果が発表され、秋田県は、小・中学校ともに、各教科において7回連続で全国トップクラスの結果となっております。この中でも本市の児童生徒は、県の平均正答率を上回るなど教科及び生活習慣や学習環境に関する調査結果において、本年度も良好な状況となっております。これは、本市の児童生徒や教員の真摯な取り組みはもちろんのこと、各家庭や地域の連携協力による安定した生活・学習習慣の確立等の成果と考えており、今後も教育環境整備の支援に努めてまいりたいと思っております。

教職員の研修については、市内の全教職員が一堂に会する第16回大仙市教職員研究集会在が、8月8日に大曲市民会館で開催され、「グローバル化に対応した外国語教育の充実～小・中・高・大の学びのつながりを通して～」というテーマでパネルディスカッションが行われております。

各小・中学校の部活動については、全県中学校総合体育大会で優勝し、東北大会で第3位となった大曲中学校サッカー部が、初めての全国大会出場を果たし、8月18日から22日まで高知県で行われた全国大会でも健闘しております。また、同校では、水泳男子背泳ぎ及び卓球女子個人戦でも全国大会出場を果たしたほか、音楽関係では、同校吹奏楽部、同校合唱部、協和小学校ブラスバンド部及び協和中学校吹奏楽部が、それぞれ東北大会への出場権を得ております。

なお、スポーツ少年団活動においても、卓球、剣道、ソフトテニス、空手、バドミントン、柔道、陸上の各スポーツ少年団が全国大会出場を果たすなど活躍しております。

生涯学習の推進については、7月20日に、市内外から72人の参加を得て第9回大仙市民交流将棋大会を開催しております。なお、前日の19日には、内小友小学校児童クラブの15人を対象に「どうぶつしょうぎ」を中心とした講習会を開催し、プロ棋士の指導を受けたところであります。

この秋開催される第29回国民文化祭については、文化祭周知のためのプレイベントとして、6月7日には「華と呈茶の祭典」、6月14日には「木村伊兵衛の足跡を巡る撮影会」、7月5日、6日には「こどもカメラマン教室」、7月21日には第10回大仙市民交流囲碁大会を開催しております。なお、8月23日には「大曲の花火ウィーク」特設会場において、県内の高校では初めて「書道パフォーマンス甲子園」に出場した大曲高校書道部にご協力をいただき、PR活動を実施しております。また、本市独自の国民文化祭市民支援事業として12事業が決定しており、980人が鑑賞した7月13日の「葛バレエ研究所発表会」を皮切りに、今後順次開催される予定となっております。

成人式については、8月15日に大曲市民会館において行われ、679人の出席のもと、新成人の門出を祝福いたしております。式典終了後の記念アトラクションでは、本市出身のシンガーソングライターとして活躍している毛利もうり大介だいすけさんとYUKAゆかさんから、新成人への激励を込めた歌の数々を披露していただいたところであります。

地域の総合的な文化の拠点である公民館等の生涯学習施設の整備については、当初予算に施設改築に係る調査費を計上している西仙北中央公民館について、地域の皆様の意見を伺いながら、基本構想の策定に向けた検討を始めております。

文化財保護については、6月16日から来年3月まで南外民俗資料交流館において、国登録有形民俗文化財「秋田南外の仕事着」の企画展を開催しており、多くの来館者に近代の庶民の生活文化を通して、ふるさとの理解と郷愁を感じさせるものとなっております。また、秋田県唯一の国宝である水神社すいじんじやの線刻千手観音等鏡像せんこくせんじゆかんのんとうきょうぞうの一般公開が、8月17日の神社の例大祭に合わせて行われ、県内外から多くの方々が訪れております。

国民文化祭での公開を目指している旧池田氏庭園及び払田柵跡の整備事業については、庭園内の米蔵修復や受付棟整備、柵跡の材木塀建て替えなどの工事が順調に進捗しております。また、画聖と呼ばれ、その画業が高く評価されている鈴木空如については、法隆寺金堂壁画模写を展示する「法隆寺一祈りとかたち」展が仙台市や東京都、新潟県長岡市で開催されたほか、NHKのテレビ番組「日曜美術館」で紹介されたことなどによる反響も大きいことから、国民

文化祭期間での企画展に向け準備を進めているところであります。

スポーツ振興については、7月12日、13日の両日、大仙市長旗争奪サッカースポーツ少年団大会第10回記念大会が開催され、本市の6チームと岩手県からの5チームを含む、県内外から過去最多の56チーム、約900人が参加し熱戦が繰り広げられております。

第23回となる全県550歳野球大会については、選抜24チームの参加のもと、南外山村運動広場を主会場に7月26日から3日間開催されたほか、本年で第36回目となる恒例の全県500歳野球大会は、これまでの最多となる181チームの参加により、9月20日から5日間の日程で開催の準備に入っております。

スポーツ等の合宿誘致については、7月28日から首都圏を中心に野球で8大学、4高校の計594人と、2年ぶりとなる早稲田大学応援部の172人、延べ5,255人が市内の施設を利用し夏季合宿を実施しております。大学野球部については、合宿期間中に県内及び近隣の大学並びに市内高校との交流戦を行い、また、早稲田大学応援部については、8月9日に行われた全県500歳野球大会抽選会に先立ち、参加チームにエールを送るパフォーマンスを披露し、8月13日には協和体育館において成果発表・総合練習を一般公開するなど、それぞれ多くの市民から観戦や見学をしていただいたところであり、地域の賑わい創出につながったものと思っております。

最後に、財政状況について報告いたします。

平成25年度の決算については、実質収支は普通会計ベースで8億4,624万円の黒字となっております。また、財政調整基金からの取り崩しを行わず2億5,042万円の積み立てを実施したことに加え、1億937万円の市債繰上償還を実施したことから、実質単年度収支も5億6,447万円の黒字となり、5年連続の黒字決算となっております。

なお、企業会計となる「市立大曲病院事業会計」及び「上水道事業会計」の決算については、収益的収支において両会計とも黒字となっております。

次に、財政指標については、財政構造の弾力性を示す経常収支比率については88.0パーセントとなり、前年度と比較して1.8ポイント改善しております。

ます。これは、歳入において、地方譲与税等が減額となったものの市税の増収により経常一般財源が増額となったこと、また、歳出において、市債発行額の抑制による元利償還金の減少や人件費の減少などにより経常経費が縮減されたことが主な要因であります。

財政健全化法に基づき公表が義務づけられている健全化判断比率のうち、実質赤字比率及び連結実質赤字比率については、平成25年度において全ての会計が黒字またはゼロ決算であるため該当しないものとなっております。

実質公債費比率については、過去3カ年の平均値で算出しており、17.6パーセントと前年度から0.8ポイント改善されております。また、単年度の比率についても、前年度から1.3ポイント改善され16.4パーセントとなっております。なお、実質公債費比率は、平成20年度決算において地方財政法で定められた基準値の18パーセントを超えたため、公債費負担適正化計画を策定し公債費の縮減に努めた結果、1年前倒しで計画を達成したものであります。

将来負担比率については、150.3パーセントと前年度から11.0ポイント改善されております。これは、市債残高の減少や財政調整基金の増加などによるものでありますが、依然として高い水準で推移していることから、引き続き市債発行額の抑制や職員数の適正管理に努めるなど、一層の改善に取り組んでまいります。

公営企業会計に係る資金不足比率については、資金不足を生じた公営企業がないため、該当しないものとなっております。

市の財政運営については、財源を地方交付税等に依存している状態であり、普通交付税については、本年度で合併特例期間が終了し、平成27年度からは減額されるなど厳しい見通しとなっておりますが、自主財源の確保や事業の取舍選択、経常経費の縮減等を進めながら、持続可能な行財政基盤の構築に努め、一層の市民サービス向上を図ってまいりたいと考えております。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況を報告いたしました。今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。市政の報告とさせていただきます。